

【問2-1 芦屋市の環境についてどの程度満足しているか】における満足度の割合 （「1.満足」、「2.やや満足」と回答した者の割合）		市民			「満足度」の割合において 有意な差が認められるもの
		計画策定時 （H26年度）	中間評価 （R1年度）	今回 （R5年度）	
自然環境に関すること					
1	山の緑の豊かさ	87.0%	87.5%	90.6%	
2	海辺の環境の良さ	63.9%	64.8%	69.4%	
3	川や池の水辺の環境の良さ	63.8%	62.4%	67.8%	
4	野鳥や昆虫などの生き物や植物の種類や数の多さ	48.7%	51.2%	54.2%	
5	山や川、海辺などの自然景観の良さ	75.2%	75.6%	80.7%	
6	自然とふれあう場所の多さ	59.8%	61.2%	61.8%	
生活環境に関すること					
7	空気のきれいさ	57.2%	64.4%	66.6%	▲
8	海や川の水のきれいさ(透明度やごみの少なさ等)	－	－	50.1%	
9	まちの静けさ	68.5%	75.6%	76.1%	▲
	海のきれいさ(透明度やごみの少なさ等) ※前回までの調査項目	29.8%	33.1%	－	
	川や池の水のきれいさ(透明度やごみの少なさ) ※前回までの調査項目	39.1%	44.4%	－	
都市環境に関すること					
10	ごみ出しマナーの良さ	63.8%	64.7%	65.7%	
11	まちの清潔さ	77.1%	79.5%	80.9%	
12	ポイ捨てごみの少なさ	60.3%	68.1%	69.9%	▲
13	犬などのペットの糞の後始末マナーの良さ	41.4%	47.1%	55.1%	▲
14	道路の整備・管理状況や交通の便利さ	57.3%	59.4%	59.5%	
15	公園の整備・管理状況や緑地の多さ	63.5%	66.2%	69.1%	
16	まちなみ(景観)の良さ	76.5%	79.0%	81.6%	
17	歴史的・文化的魅力の豊かさ	56.9%	62.6%	60.5%	

3回のアンケート調査結果の傾向を比較した場合に、令和5年度の回答結果の傾向に有意な差があると認められたものを示す。
※分析ソフトは「R」を使用し、カイ2乗検定によって算出

80%を超えているもの
▲ 上昇しているもの
▼ 減少しているもの

【問3】環境を守ることや市の取組に対する考え		市民			有意な差 が認めら れるもの
		計画策定時 (H26年度)	中間評価 (R1年度)	今回 (R5年度)	
1)環境を守ることについてあなたの考えに最もちかいものを1つ選んでください。					
1	環境を守ることが最も大切であり、そのためならライフスタイルを変えたいと思う	4.4%	5.9%	7.8%	
2	環境を守ることが大切であり、可能な範囲でライフスタイルを変えてもよい	68.0%	75.6%	75.9%	
3	環境を守ることが大切だが、ライフスタイルは変えたくない	21.8%	16.9%	14.8%	
4	環境を守る必要はない(環境を守る必要性を感じない)	3.3%	0.1%	0.4%	
5	無回答	2.5%	1.5%	1.1%	
2)環境を守るために望ましい取組についてあなたの考えに最もちかいものを1つ選んでください。					
1	環境保全を地球規模で考え、行政(国や県)が対策に力を入れるべき	19.7%	24.6%	30.8%	▲
2	環境を守るために、行政(市)・事業者・市民が一体となった取組を進めるべき	62.5%	60.0%	55.6%	▼
3	地域の特色を生かし、自治会などが中心となって取組を進めるべき	8.8%	5.2%	4.5%	▼
4	環境を守るには、一人ひとりが個別に取り組むべき	6.1%	8.1%	7.1%	
5	無回答	2.9%	2.1%	2.1%	
3)芦屋市の「目指す環境の姿」及び「基本方針」を知っていますか。あてはまるもの1つを選んでください。					
1	目指す環境の姿や基本目標を知っていて、内容も把握している	1.9%	1.4%	3.1%	▲
2	環境計画に目標などを示していることは知っている	14.1%	15.8%	15.4%	
3	環境計画があることは知っていたが目標などについては知らない	39.6%	43.3%	36.9%	▼
4	環境計画があることを知らない	42.5%	38.1%	42.6%	
5	無回答	2.1%	1.3%	2.1%	



3回のアンケート調査結果の傾向を比較した場合に、令和5年度の回答結果の傾向に有意な差があると認められたものを示す。
※分析ソフトは「R」を使用し、カイ2乗検定によって算出

▲ 上昇しているもの
▼ 減少しているもの

【問4-1 環境保全への取り組み】における取り組み度の割合 （「1.いつもしている」、「2.できるだけしている」と回答した者の割合）		市民			「いつもしている」の 回答割合に有意な 差が認められるも の
		計画策定時 （H26年度）	中間評価 （R1年度）	今回 （R5年度）	
家の中やその周りで					
1	こまめに蛇口を閉める、風呂の残り湯を使うなど水の無駄遣いを防ぐ	86.0%	83.4%	86.1%	
2	不要な電気を消す、使っていない家電のコンセントを抜くなど、 節電に取り組む	85.0%	81.6%	82.2%	
3	生ごみを水切りしてから捨てる	87.1%	86.3%	84.9%	
4	自然の風を取り込む、重ね着するなどして、できるだけ冷暖房の 利用を減らす	82.4%	72.5%	71.2%	▼
5	冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする	88.8%	83.9%	82.1%	▼
出かける時に					
6	自動車の代わりに徒歩・自転車・公共交通機関を利用する	74.6%	72.5%	74.0%	
7	たばこ・空き缶などのポイ捨てや、歩きながらの喫煙をやめる	83.5%	81.1%	84.0%	
物を買う時に					
8	使い捨て製品は買い控える	70.6%	64.6%	68.3%	
9	買い物には、マイバッグを持っていく	77.8%	74.0%	91.5%	▲
10	省エネ製品を選んで買う	80.7%	73.6%	77.4%	
物を捨てる時に					
11	使えるものは修理して使う	77.8%	76.8%	80.8%	
12	ごみは決められた方法に従って、分別して捨てる	97.1%	95.5%	96.3%	
13	まだ使えるが不要となったものは、リサイクルショップに出すなど、 他の人に使ってもらう	54.3%	52.6%	55.8%	
余暇の際に					
14	庭やベランダなどで、緑や草花などを育てる	66.2%	60.7%	57.5%	▼
15	山や海などに行き、自然と触れ合う	47.3%	45.6%	45.6%	
16	地域の歴史や歴史資源に関心を持つ	38.9%	37.4%	38.7%	
地域の活動に					
17	緑化イベント、美化活動など、地域の環境保全活動に参加する	19.2%	16.2%	15.4%	
18	自然観察会・環境体験イベントなどの環境学習活動に参加する	10.0%	9.2%	9.4%	



3回のアンケート調査結果の傾向を比較した場合に、令和5年度の回答結果の傾向に有意な差があると認められたものを示す。
※分析ソフトは「R」を使用し、カイ2乗検定によって算出

80%を超えるもの
▲ 上昇しているもの
▼ 減少しているもの